

活動報告



土日に開催されるイベントをめぐることによって市政の動きをチェックできます。これは、新しい移動手段として「電動キックボード」の試乗がおこなわれていたときのものです。交通手段の革新的な革新は日々進んでおり、近い将来わたしたちの暮らしをよりよくすることは間違いないもの。そのためにも日々、動きを追っていきたく思います。



所属する議会広報委員会で大学生との意見交換会をおこなっています。大学生にとり議会は「遠い」存在かもしれませんが、そうではないこと、じつは身近であることをまずは言葉ではなく、会うことにより知ってもらうことができるはず。どんどんこういう機会を増やしていければと思います。



若手の政策集団「チャレンジ岡崎」として、定期的に活動しています。駅前での活動や公民館を借りての報告会、また写真のような街頭での活動をしています。これからもしっかりと身近な議員としての活動続けていきたいと思っています。



最新情報・活動報告はコチラから！

★H P★

★Twitter★ @odatakayuki1984

★facebook★

小田たかゆき
LINE公式アカウント
始めました！！
ぜひご登録を！



小田
たかゆき

市政レポート

昭和59年、岡崎市柱町で、3人兄弟の長男として生まれる。岡小→南中→北高でサッカーに夢中な日々を過ごし、卒業後18才でサッカーの母国イギリスにわたりコーチングライセンスを取得。帰国後、関西学院大学・大学院(兵庫)で都市計画、災害対策を学ぶ中、中国の四川大地震、東日本大震災、山間部の豪雨災害に被災した現場を訪れる。卒業後、京都の小さなNPO法人に就職し、専門性を活かした職務に従事する。若者の意見が政治に届いていない現状を、仕事や学生時代の仲間と話しをする中で疑問に感じ、28歳で、自ら三田市(兵庫)の市議会議員選挙へ立候補するも思い届かず落選。その後、ふるさとの岡崎で政治を一から学ぶことをここに誓い、3年間、愛知県議会議員の秘書として愛用のバイクで岡崎を走り回り続ける。平成28年、岡崎市議会議員選挙に立候補し初当選。

岡崎市のふるさと納税について

「ふるさと納税」に苦戦しています。

ふるさと納税は、生まれ故郷を応援したい、縁のある自治体に還元したい、その思いを形にするものであると説明がなされてきた一方で、納税に対する返礼品を商品に見立て、それをいかに売るかを競う場としても注目がされてきました。

後者についてはさまざまに議論があった末、2019年6月に法改正が行われ過度な返礼品合戦を抑制する方向へと舵が切られたことは記憶に新しいところです。

制度の理念と実態の乖離はただされなければなりません、それは国が取り組むことで、岡崎市としてはそのルールの中でどうしていくのかを考えていかなければなりません。

というのも、岡崎市はここで苦戦しています。直近の調査では、約5億2千万円が市外へ流出し、他方で、入ってくるのは約4千万円しかない状況です。

わたしたちは、ふるさと市場(あえてそう呼びますが)では約4億8万円の赤字なのです。かりにこれが毎年つづくことになれば、10年で50億円、20年で100億近い税収が流出していくことになってしまうかもしれません。

とはいえ、なかなかすぐにこれを改善していくことは難しいとおもいますが、理念通りに岡崎市に貢献したいと思うひとを増やすことはもちろん、花より団子、やはり魅力的な返礼品をルールに沿って提供していくことが必要です。

例えば、岡崎市を中心に活躍するYoutuberとコラボしたものや、日本に一台しかないレッドサラマンダーの試乗券など、ものだけではなく、観光を伴う独自商品を今以上に拵えていくのも一案かもしれません。

いずれにしろ、どんどんいろんなアイデアを出しつつ、様々な業者と連携を取りながらこの市場における岡崎市の独自性を発揮できるように提案していきます。

詳細はブログでも！ ➡

